



県民だより

さががすき。
saga ga suki

令和5年11月20日

広報広聴課

(県民だよりに関する) 広報担当

担当者 小柳、大串

直通 0952-25-7219

E-mail: dayori@pref.saga.lg.jp

(副知事 島耕作に関する) サガプライズ!

担当

担当者 池田、柴田

直通 03-6418-8329

E-mail: sagaprise@pref.saga.lg.jp

“異例の人事”発表が全国で話題に！ついにあの男が動き出す！！

県民だより「さががすき。」12月号に 佐賀県副知事に就任した島耕作氏が登場！

県内全戸に配布される県政広報誌で、島耕作副知事が県内の就職事情の今昔について解説します
現在、スポーツマンガ号が県内巡行中。「副知事 島耕作の執務室大公開展」はいよいよ11月27日から

「佐賀県副知事 島耕作」特設ウェブサイト URL : https://sagaprise.jp/fukuchiji_shimakosaku



©弘兼憲史 / 講談社

佐賀県の旬な県政情報や佐賀の持つ唯一無二な価値を、県内全世帯へ毎月お届けする県政広報誌、県民だより「さががすき。」12月号に、11月14日付けで就任したばかりの島耕作副知事が登場します。県民の皆さんから高い支持を得ている特集記事には、島耕作副知事のインタビューを掲載。民間企業経験者の視点から「就職」という切り口で佐賀について語ります。

県民だより特集ページでは、通常は、県内で自発的な地域づくりに取り組まれている方などに焦点を当て、県民の皆さまへご紹介しており、マンガのキャラクターを全面に起用した特集記事の制作は初めての取り組みです。

島耕作氏の副知事就任は、情報発信プロジェクト「サガプライズ！」の一環として、佐賀県がシリーズ累計発行部数 4,700万部を超え、シリーズ 40周年を迎えた人気ビジネスマンガ「島耕作シリーズ」（原作：弘兼憲史/講談社）とコラボレーションしたことで実現。副知事として、佐賀県のスポーツビジネスと半導体産業の情報発信を担当しています。

担当公務として、スポーツの裾野を広げるために講談社のスポーツマンガ約 750冊を積んだ「スポーツマンガ号」が佐賀県内を巡行しているほか、11月27日からは佐賀県庁内に島耕作の執務室を設置。「島耕作シリーズ」の複製原画や連載 40周年の軌跡を辿る“島耕作クロニクル”、実際に動いて話す“Live2D 島耕作”を展示する「副知事 島耕作の執務室大公開展」などを併せて開催します。

■副知事就任について

民間企業等経験者採用（中途採用）者の割合が全国1位の佐賀県は、これまで多様な人材を受け入れてきました。今回は、連載40周年を迎え、日本で最も有名なビジネスパーソンの一人であり、大手家電メーカー「TECO」（テコット）の社長、会長を歴任した島耕作氏を副知事に任命し、佐賀県のスポーツビジネスと半導体産業の情報発信を担当しています。

昭和、平成、令和とそれぞれの時代を人脈とアイデア、そして常に前向きな姿勢で乗り越えてこられた島耕作氏の知見が佐賀県政に活かされることを期待しています。

■県民だより「さががすき。」について

県民だより「さががすき。」は、旬な県政情報や佐賀の持つ唯一無二な価値を県民の皆さんへお届けする県政広報誌で、毎月1日発行しています。県内全世帯に配布しており、発行部数は約32万5千部。ホームページや、専用アプリ「カタログ・ポケット」などでも閲覧可能です。また、「さががすき」という名称には、「県民の皆さんに佐賀の本質的な素晴らしさを伝えたい。さらに、誇りに思ってもらいたい」という思いを込めています。

12月号特集ページは「副知事島耕作に聞く！佐賀の就職事情の今昔」と題し、県外に出なければ仕事なかった60年前と、人材不足となっている佐賀の現状について、島耕作副知事が解説します。佐賀県の地の利や手厚いサポートによって、世界的企業が佐賀県に進出していることや、多種多様な人材が佐賀でいま求められていることなどもご紹介しています。



（県民だより「さががすき。」2023年12月号より）



©弘兼憲史 / 講談社

■スポーツマンガ号の県内巡行

SAGA2024 や SAGA アリーナ誕生、プロスポーツチームの躍進など佐賀県のスポーツの盛り上がりをさらに加速させるべく、さまざまな施策を行っています。

マンガを通じてスポーツに興味を持ってもらい、スポーツ文化の裾野を広げるため、講談社の人気スポーツマンガ30タイトル以上と「島耕作シリーズ」、約750冊を集めた「スポーツマンガ号」が佐賀県内を巡行しています。展示期間中は、様々なスポーツマンガを無料で読むことができ、マンガを通じてスポーツの楽しさに触れていただくことができます。



©弘兼憲史 / 講談社



©弘兼憲史 / 講談社

スポーツマンガ号 今後の運行情報（展示日時）

展示日時①：2023年11月22日（水曜日）、23日（木曜日・祝日） 10時-17時
場所：くすかぜ広場・ARKS（アルクス） 住所：佐賀県佐賀市松原 1-1-1

展示日時②：2023年11月25日（土曜日） 11時-19時
26日（日曜日） 11時-16時
場所：佐賀駅前交流広場 住所：佐賀県佐賀市駅前中央 1-79

■副知事 島耕作の執務室大公開展

島耕作氏の執務室仕様となった県庁 CLASS（旧知事室）にて、副知事として業務を遂行する島耕作氏の執務室を公開し、連載 40 周年記念の複製原画などを展示します。

また、来場特典として、アンケートにご回答された方の中から抽選 1 名様に今回のコラボキービジュアルの複製原画が当たるプレゼントキャンペーンも実施します。



©弘兼憲史 / 講談社

イベント概要

開催期間：2023年11月27日（月曜日）～2023年12月19日（火曜日）

9時00分～18時00分（土日祝は9時30分～18時00分）

開催場所：佐賀県庁 県庁 CLASS（旧知事室）（佐賀県佐賀市城内1丁目1-59）



※画像はイメージです。

©弘兼憲史 / 講談社

POINT1

「佐賀県副知事 島耕作」 ビジネスマン人生と佐賀県の歴史を振り返るクロニクル

今年で連載 40 周年を迎える「島耕作シリーズ」。島耕作氏が佐賀県副知事に就任するまでの人生の軌跡と佐賀県の歴史を一度に楽しむことができます。

POINT2

連載 40 周年記念 複製原画展 弘兼憲史さんの複製原画 11 点を期間限定展示

連載 40 周年を記念し、複製原画の展示を実施いたします。佐賀県庁旧知事室を探検しながら、原作者・弘兼憲史さんの複製原画 11 点をお楽しみいただけます。



©弘兼憲史 / 講談社



©弘兼憲史 / 講談社

POINT3

Live2D 島耕作

Live2D の技術によって、実際に動いて話す島耕作氏が登場。ご来場者はどなたでも、副知事となった島耕作氏に会うことができます。



※画像はイメージです。

■オリジナルマンガ「副知事 島耕作」も WEB で公開中

原作者・弘兼憲史さん監修のオリジナルマンガを特設サイトにて 11 月 14 日（火曜日）から公開しています。

“なぜ、島耕作氏が佐賀県の副知事にオファーされ、引き受けたのか。そして、なぜ佐賀県でスポーツビジネスに携わることになったのか。”

島耕作氏が佐賀県の副知事に就職することとなった経緯や想い、公務として取り組む佐賀のスポーツビジネスについて「島耕作シリーズ」の世界観でお楽しみいただけます。



©弘兼憲史 / 講談社



©弘兼憲史 / 講談社

■キービジュアル



©弘兼憲史 / 講談社

■島耕作プロフィール



©弘兼憲史 / 講談社

76 歳。2022 年 2 月に『相談役 島耕作』が閉幕し、新卒以来、50 年以上勤め上げた「TECO」（旧初芝電気産業）でのサラリーマン人生に終止符を打った。現在連載中の『社外取締役 島耕作』では塗建会社「UEMATSU 塗装工業」、宅食サービス「アントパス」の社外取締役を務める中、このたび佐賀県の副知事にも就任。

■「島耕作」シリーズについて



1982年に読み切り漫画『係長 島耕作』（講談社）として掲載され、翌年から『課長 島耕作』として『モーニング』にて連載開始。松下電器産業（現・パナソニック）に勤務経験がある漫画家・弘兼憲史氏が、家電メーカーに勤める主人公のリアルなサラリーマン世界の模様を描く。作中では部長、取締役、常務、専務、社長、会長と昇進を重ねて、シリーズ累計発行部数 4,700 万部を超える人気マンガとなった。シリーズ 40 周年となる現在は『社外取締役 島耕作』を連載中。

■サガプライズ！について



2015年7月にスタートした、佐賀県の情報発信による地方創生プロジェクト。

企業やブランドとのコラボレーションにより生まれた情報や商品などを通じて佐賀県の魅力を首都圏を中心とした多くの人に届け、得られた知見や事例を県内にフィードバックし、地域資源の磨き上げや地域活性につなげています。

佐賀県は、ゲーム、アニメ等サブカルコンテンツ系とのコラボを多数実施しており、これまでに人気アニメ「銀魂」や「ユーリ!!! on ICE」などとコラボを展開しています。

サガプライズ！公式サイト <https://sagaprise.jp>

サガプライズ！Twitter <https://twitter.com/sagaprise>

【クレジットについて】

「島耕作」シリーズ関連の写真や動画を使用される場合は、以下のクレジットを必ず入れてご使用ください。

©弘兼憲史/講談社